

地域連携推進会議

株式会社サンハーツgroup

本日の進行について

1. 開会
2. 株式会社サンハーツgroupについて
3. 従業員数
4. ユニット数
5. 定員数
6. 支援のあり方、考え方
7. ディスカッション
8. 終了

1. 開会

皆様、本日は地域連携推進会議にご参加いただき、誠にありがとうございます。

地域社会と共存し、皆様との密な連携を通じて、利用者様が安心して生活できる環境を築いていくこと。それが私たちの最大の使命です。

本日は、私たちの現状と、日々の支援に対する考え方をありのままお伝えし、皆様と有意義な意見交換ができることを楽しみにしております。



2. 株式会社サンハーツgroupについて



利用者様へ（人間性の尊重）

人間性を尊重し、耳と心で理解し、真摯に向き合います。心身ともに健康で、心豊かに安心して生活できる環境を支援します。



地域社会へ（共存と連携）

各市区町村、医療機関、関係機関等の地域のニーズに対応できるよう連絡・連携を密にし、地域と共存していく施設を目指します。



私たちの姿勢（自己研鑽とチームワーク）

相手を思いやる気持ちを大切にし、心のこもったサービスを提供します。信頼・素直・誠実・尊敬・高潔さを原則とし、専門職員として常に自己研鑽に努めます。

3. 従業員数の推移

共に支援をつくる仲間たちの推移

2020年：10名



2021年：18名



2022年：23名



2023年：27名



2024年：34名



2025年：55名



4. ユニット数の推移

地域における生活の拠点の推移

2020年：3



2021年：5



2022年：6



2023年：8



2024年：11



2025年：15



5. 定員数の推移

お迎えできる利用者様の推移

2020年 : 10名

2021年 : 18名

2022年 : 26名

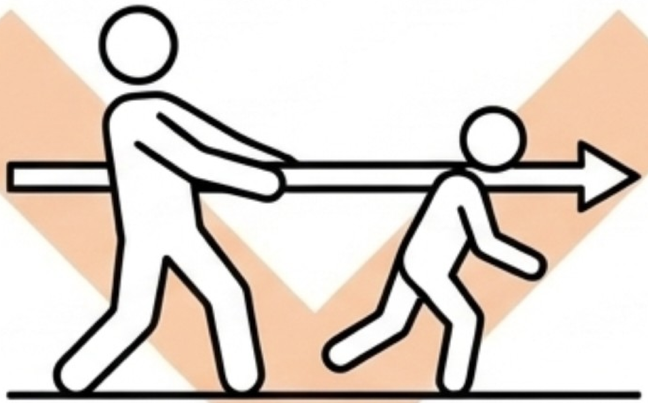
2023年 : 38名

2024年 : 47名

2025年 : 59名



6. 支援のあり方、考え方（アプローチ）



【左側】管理（コントロール）

・こちらのスケジュールに合わせてもらう
・支配的な関係性
・「作業」としての対応



【右側】共に歩む（共創）

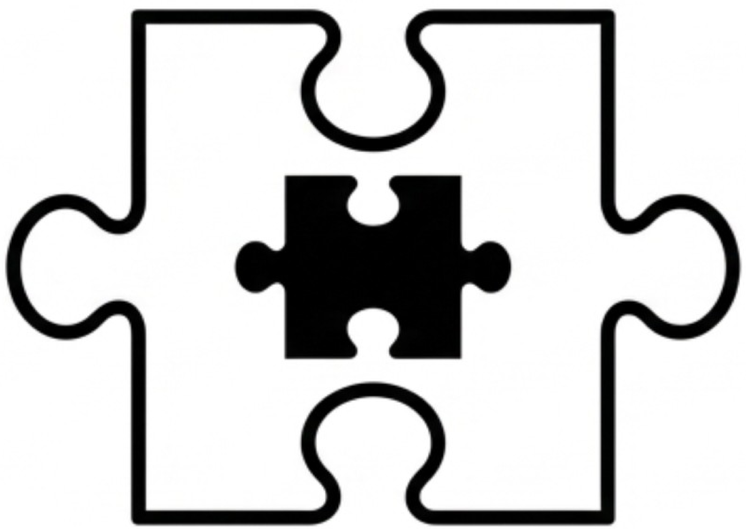
・相手の歩幅を確認しながら横を歩く
・意思を尊重した関係性
・「支援」としての対応

私たちは「管理」ではなく、プロとして
相手の歩幅に合わせ「共に歩む」支援を実践しています。

6. 支援のあり方、考え方（視点の切り替え）

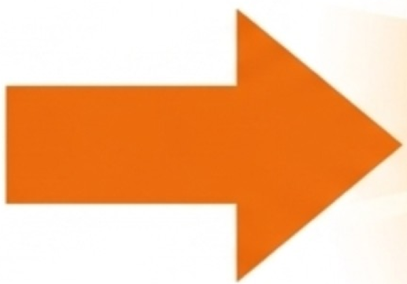
「ストレングス・モデル」の導入

支援の視点を根本から切り替えます。



これまでの視点

「できないこと」を見つけ、
それを埋めるための支援。





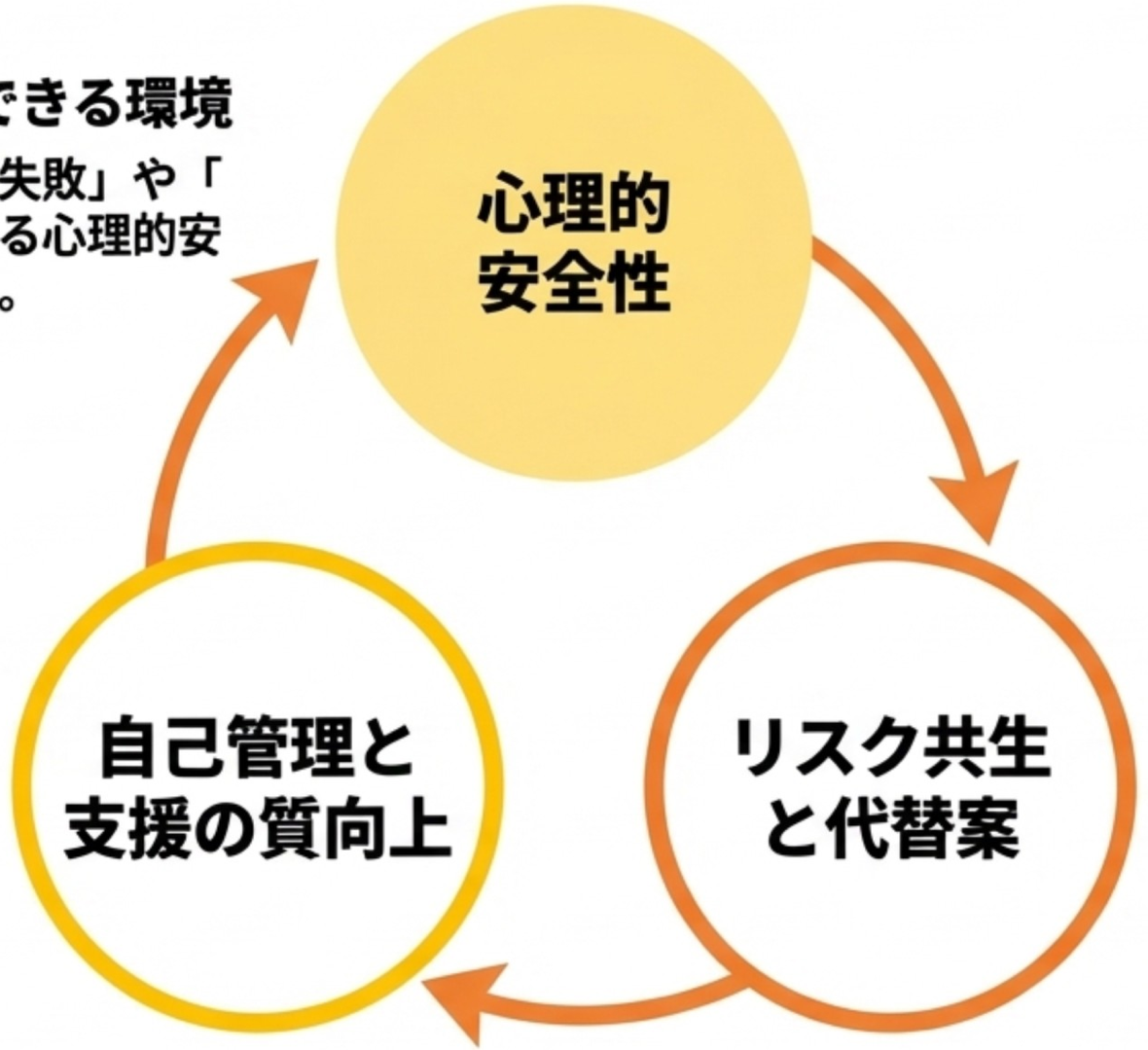
私たちの視点

「本人の強み（やりたいこと）」を発見し、
それを最大限に活かすための支援。

6. 支援のあり方、考え方（持続可能なチームづくり）

1. 失敗を報告できる環境

職員が安心して「失敗」や「迷い」を共有できる心理的安全性を構築します。



2.「リスク共生」の判断

「危ないからダメ」と制限するのではなく、「どうすれば本人の願いを叶えつつ、リスクを許容範囲に抑えられるか」という代替案をチームで考えます。

3. プロとしての自己管理

自己犠牲による「質の低下」を防ぎ、健康に長く働ける境界線（バウンダリー）を保ちます。

7. ディスカッション



ここからは、皆様との意見交換のお時間とさせていただきます。
忌憚のないご意見をお聞かせください。

8. 終了

本日は貴重なお時間をいただき、
誠にありがとうございました。

引き続き、株式会社サンハーツgroupをよろしくお願い申し上げます。